

「油井小・中学校の「仮面の世界 i n 油井」の取組」

1 学校名

瀬戸内町立油井小・中学校

2 学年・人数

小学校 全児童(11人) 中学校 全生徒(7人) (計18人)

3 日時・場所

(1) 制作の日時・場所

平成27年10月21日(水) 油井小・中学校体育館(土台作り)

平成27年10月28日(水) 小5・6年教室(色付け)

(2) 発表の日時・場所

平成27年11月 1日(日) 油井小・中学校体育館 学習発表会会場

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称 お面作り：「仮面の世界 i n 油井」

※ 11/15に実施された国民文化祭「仮面の世界 i n 奄美」にちなみ命名

(2) 由来

本校区には、県指定無形民俗文化財の「油井の豊年踊り」に使用される紙面がある。これは、人の顔が隠れるぐらいの大きさの紙面である。昨年行われた国民文化祭「仮面の世界 i n 奄美」で特大の紙面の制作・展示の要請が油井集落にきたという情報から、国民文化祭に自分たちも参加したいという意気込みで「仮面の世界 i n 油井」と題して、本校なりのお面作りに取り組んだ。

(3) 構成等

油井集落の特大紙面は、まず粘土状の土を紙面の土台として使っているが、子どものお面は、油粘土を土台として使い、乾燥させ新聞紙を幾重にも重ね貼りした後、またその上に習字紙を幾重にも重ね貼りしてしっかり乾燥させる。その後、土台から外して、色付けするというものである。

5 保存会や地域との連携の具体

「油井の豊年踊り」に使用される紙面の特大版(約120cm)を昨年行われた国民文化祭「仮面の世界 i n 奄美」で制作・展示の要請があったと分かった時点で、地域の先輩方に負けないお面を作ろうということになり、「仮面の世界 i n 油井」と題して、本校なりに取り組んだ。子どもの中には、油井集落の「豊年踊り」をやがて伝承するであろうと思われる子どもがいるため、この時期にお面作りをする経験が必ずやがて役立つだろうと考えたこともこの活動を行う理由でもあった。油井集落との連携は、紙面の特大版の作り方を区長さんに教えていただき、その工程の進み具合により写真を撮り、写真を子どもたちに見せることでイメージを膨らませる手助けとした。また、本番の制作では、郷土館の学芸員を講師招聘し、土台作りを指導していただいた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

「油井の豊年踊り」には、全児童・全生徒が毎年参加し、紙面をよく見て知っているため、イメージはとらえやすかったが、自分のオリジナルのお面をどのように作っていくかは少し苦労した。そこで、「仮面は、どんな時に被る物か、もし被るとしたら、な

ぜ被りたいと思うのか」などを考えさせたり，国民文化祭に招待されている他の県のお面（なまはげ：秋田，ひよっとこ：宮崎）なども写真で紹介したりした。

材料等については，講師より制作のための資料を先にいただいていたので，土台となる油粘土やお面の顔の部分になる習字紙や水糊などの準備を整え，一連の作業工程をまず中学生に先にチャレンジしてもらった。そこから小学生は，土台作りにどれぐらいかかる等の予測を立てることができ，活動がよりスムーズに進んだ。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



油井集落の特大紙面（約120cm）



お面の土台作り（小学生）



お面の色付け（中学生）



学習発表会会場展示（完成作品：小学生）

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【4年生児童】

自分がイメージした通りのお面ができあがったので，とってもうれかった。

【6年生児童】

土台はおうとつが多かったのでうまくいくか心配だったが，つぶれずうまくいった。

【中3年生徒】

幾重にも重ねた紙が土台から外れお面の形になっていた時，思わず感動した。

【保護者】

お面作りをしているらしいということは，子どもから聞いていたが，こんなに本格的なお面とは思わなかった。相当時間をかけて一生懸命に作ったのだろうということがどのお面からもよく伝わってきた。

【教職員】

子どもの満足した表情やこぼれんばかりの笑顔を見て，この活動に取り組んでよかったと改めて感じた。

【油井集落区長】

油井集落の紙面作りの苦勞が分かっているので，子どもたちも難しいところがあったと思うが，複雑な形のお面を上手に作っていて驚いた。この子どもたちが大人になって，私たちがつないできたこの伝統を守っていってくれたらと願う。